JANES Newsletter No.25-1
日本ナイル・エチオピア学会

2017 年 8 月 1 日

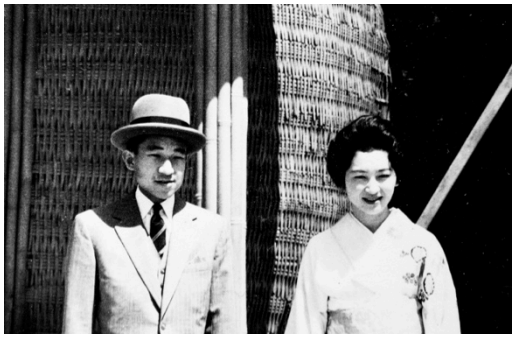
1. 巻頭言 -エチオピア学事始め-

橋本陞
日本ナイル・エチオピア学会会員
（元 Jubilee Palace　園芸技術顧問[1958-1963]）

1960 年はアフリカの年と呼ばれている。以前、アフリカ大陸の独立国はエチオピアを含め9カ国であったが、この年 17 カ国が独立を遂げて 26 カ国となったからである。

1950 年代後半、日本は戦後の荒廃から立ち直り復興が進んで来た。 アフリカ地域（特に北東アフリカ）の学術的調査研究は京都大学の今西錦司先生、伊谷純一郎先生の霊長類の現地調査研究から始まった。1960 年代前半に名古屋大学理学部の諏訪兼位先生、名城大学薬学部の長沢元夫先生はエチオピアの地質・薬用植物について調査研究された。更に京都大学の河合雅雄先生達が長期的な調査研究を始められた。これらの現地における研究成果が積み上げられて、1964 年日本アフリカ学会が設立された。

この時期日本は、経済的には発展途上で1ドル 360 円であり、研究者達の資金調達は困難を極めたと推察する。次いで 1992 年日本ナイル・エチオピア学会が設立された。エチオピア地域研究が始まった 1950 年代後半から 1960 年代前半の中間点である 1960 年は日本の「エチオピア学事始め」と言えるのではないか??



写真（右）：1960 年 11 月エチオピアを訪問された皇太子・皇太子妃（当時）が Jubilee Palace 内の Sidamo house 前にて撮影

目次

1 巻頭言　1 頁

2 ナイル・エチオピア地域
現地・渡航情報　2 頁

3 学会動向　4 頁

4 Nilo-Ethiopian Studies
投稿のすすめ　8 頁

2. ナイル・エチオピア地域 現地・渡航情報

I. ウガンダ調査許可情報

II. マケレレ大学社会科学部の倫理審査について

III. エチオピアビザ情報

IV. 国際エチオピア学会情報

I. ウガンダ調査許可情報

ウガンダで調査をおこなう場合には準政府独立機関であるウガンダ科学技術評議会（UNCST）をつうじ調査登録をおこない、調査許可（research permit）を得る必要があります。この調査登録と手続きに関して 2016 年 7 月にガイドライン（Research Registration and Clearance Policy and Guidelines）が改訂されました。ガイドラインには UNCST の施策、調査登録（登録が完了すると調査許可を得ることができます）の目的と手順、そして施策と調査登録の関連が簡潔に記載されています。3～4 ページ「6.0 研究プロトコルの登録」には、研究代表者に提出義務がある「様式１」（UNCST/RC 1/02）と、研究代表者および共同研究者に提出義務がある「様式６：ウガンダにおける調査の遂行と文書館の利用を希望する調査者のための申請書」（RS 6）の作成手順が書かれています。

「様式１」では、セクション A と B で申請者の詳細のほか研究プロジェクトの主要点・タイトル・目的、調査研究計画・方法の概要、研究プロジェクトを実施する上での鍵となる倫理問題とその対処方法、研究参加者・地域社会・ステークホルダーへの研究結果の情報発信の計画のポイントを書きます。そして最後に身元照会人（2 名）を示して、研究プロジェクトの「年次経過報告」「完了時最終報告」「成果出版物の写し」の提出を約束し、署名します。「様式６」では申請者の学歴・職歴、研究プロジェクトのタイトルと方法、調査地と調査期間、調査を推奨・支援している機関の名前と連絡先などを記します。いずれの様式もガイドライン（UNCST の HP 上ではファイルの名前が“Revised Research Policy and Guidelines”となっています）が掲載されたホームページからダウンロードできます。なお、様式１と様式６に加え、ウガンダにおける受け入れ研究機関（local organization of affiliation）から推薦状（letter of recommendation）を得て添付する必要があります。

UNCST への提出方法は 2 通りあります。ひとつは UNCST のホームページからオンラインで作成してオンラインで提出する方法（注：推薦状は PDF にして提出）です。もうひとつはホームページから用紙をダウンロードして書類を作成し、UNCST のオフィスで手渡しする方法です。許可証（research permit）は、審査を通過したうえで所定の調査許可料（research administration and clearance fee）を支払ったのち受け取ることができます。

ガイドラインと 2 種類の様式の URL：https://uncst.go.ug/guidelines-and-forms/

（上記の情報の一部は、大阪大学の中西美絵さんに提供いただきました）

（波佐間逸博会員）

II. マケレレ大学社会科学部の倫理審査について

マケレレ大学社会科学部をカウンターパートとしてウガンダ国内で調査をおこなう場合には、UNCST への調査許可申請に先立って、同学部の倫理委員会（Research Ethics Committee）の倫理審査を経る必要があります。委員会が作成したガイドラインに従って必要書類を提出し、審査に合格した上で、所定の調査費（research fee）を支払うと、承認のレター（approval letter）が発行されます。2017 年 3 月の時点で、倫理委員会は医療人類学者の Dr. Neema Stella 委員長以下 13 名の委員で構成されており、社会科学部建物にあるオフィスには事務スタッフが常駐しています。申請の手順や必要書類は変更される可能性がありますので、申請時にスタッフに確認すると良いでしょう。（3 頁へ続く）

筆者は 2017 年 3 月、他の日本人研究者 4 名と連名で、「ウガンダ北部のてんかん患者とその家族に関する人類学調査」の倫理申請をおこないました。 委員会のスタッフから入手したガイドラインに従い、申請フォーム（application form）、提案書（research proposal）、同意フォーム（consent form）、インタビュー・ガイド（interview guide）を作成して提出しました。提案書に記入すべき事項については、申請ガイドラインに細かく指示が書かれています。

また同意フォームとは、調査に参加してもらう人たちの同意を確認するための文書です。筆者のプロポーザルでは、こどもにも調査に参加してもらうことから、成人用のフォームの他に、未成年用と保護者用のフォームも提出を求められました。インタビュー・ガイド（interview guide）とは、調査参加者に質問を予定している項目をリストにしたものと考えて良いでしょう。

これらの文書を揃えるのは、かなりの作業量になります。また合意フォームの記載事項など、ガイドラインを読んだだけではわからないことも多々あり、筆者は委員会のスタッフにずいぶん助けてもらいました。筆者の申請は同年 4 月に開催された委員会で審査にかかり、いくつかの修正を条件に受理されました。

（西真如会員）

III.　エチオピアビザ情報（学会よりお願い）

昨年度（2016 年度）のニュースレター No.24-1 にて、2016 年度学会総会では、学会が、学術研究目的の場合に限りビジネスビザの取得支援（査証許可書申請）をおこなうことが報告されました。その後、学会長には年間 40 人以上ものビザ取得手続きにたずさわっていただきました。2017 年度にはいり、アジスアベバ大学をはじめ、エチオピアのカウンターパート側もこの手続きに慣れてきた様子ですので、今後は各人のカウンターパート機関を通じて、個別にビザの手続きをすすめていただきたくお願いいたします。

また、6 月 17 日より、観光ビザにかぎってオンラインでビザを取得することが可能になりました。下記ウェブサイトをご確認ください。

https://www.evisa.gov.et/#/home

（金子守恵会員）

IV.　国際エチオピア学会情報

第 20 回国際エチオピア学会が、2018 年 10 月 1 日～5 日にかけて、メケレ大学にて開催されます。学会の総合テーマは、“Regional and Global Ethiopia-Interconnections and identities”です。Panel の企画申し込みは、2017 年 5 月 30 日に終了しました。個人の発表申し込みについての詳細は、学会事務局が準備中です。プログラムについては、個人発表の要旨等をうけつけてから公開される予定です（2017 年末もしくは 2018 年初めの予定）。

第 20 回国際学会への登録申し込みは、2017 年 12 月 1 日の予定です（下記サイト参照）。http://www.ices20-mu.org/registration.html

（金子守恵会員）

3. 学会動向

I. 2017 年度総会報告

2017 年 4 月 16 日（日）富山大学において、日本ナイル・エチオピア学会 2017 年度総会が開催されました。

総会では、2016 年度事業報告、2016 年度会計報告および会計監査（会計監査：斎藤直樹会員、梅屋潔会員）について報告がありました。続けて、2017 年度事業計画および予算についての報告もありました。2016 年度事業報告および 2016 年度事業計画については 5-6 頁（資料 1-2）を参照してください。

第 27 回学術大会が 2018 年 4 月 21-22 日に東京外国語大学にて、第 28 回学術大会が 2019 年 4 月 20-21 日に京都大学が主催して開催されることが報告されました（7 頁、資料 3）。また、第 23 回高島賞受賞対象著書として、野口真理子会員の「エチオピア西南部アリ農村における高齢者の生活を支える社会関係」（『アフリカ研究』90 号 71-83 頁、2016 年）が増田研評議員の推薦をうけ、審査を経て、高島賞受賞に値するという結果が報告されました（7 頁、資料 4）。JANES ニュースレター No.25-3 で審査結果報告および受賞記念講演について報告します。

写真：重田学会長から高島賞賞状を受けとる野口真理子会員

II. 公開シンポジウム（講演会）

2017 年 4 月 15 日（土）富山大学において第 26 回学術大会公開講演会が開催されました。今回の公開シンポジウム（講演会）は、「アフリカと日本における無形文化遺産ー保護・継承・発展にむけてー」という総合テーマで、4人の講演者の方をお招きして開催しました。講演タイトルは以下のとおりです。

講演1：Hidden and Official “Traditional Rituals” in Tigray, Ethiopia.（エチオピアの「伝統的儀礼」の表と裏） Dr.Wolbert Smidt, Mekele University

写真：会場からの質問に対して回答する Wolbert 氏

講演2「アフリカの舞踏の記録と継承」遠藤保子会員、立命館大学

講演3「日本の祭りの『遠征』と『競技化』阿南透氏、江戸川大学

講演4「日本の文化在保護制度と無形文化遺産」石垣悟氏、文化庁

III. 学術大会報告

4 月 17 日（日）は、公開講演会と同じ会場において、第 26 回学術大会が開催され、10 人の会員が発表しました。発表タイトルと発表者は、次のとおり（敬称略）。

“Attributes of the Coffee Distribution System in Ethiopia”（川股一城）■「エチオピアにおけるウマ科動物と人々の関係ー南部諸民族州アラバ県 Alaba Kulito における在来運搬手段 Gari についての予備調査報告」（土井保真利）■「Ethio-Tabi の創造に関する実践的地域研究①：オロモ農耕民への地下足袋導入の課題」（田中利和）■「エチオピアにおけ革靴製造業ー組織の変容と技能の形成」（松原加奈）■「ティグライ地方の伝統的な集落形成とメケレの都市形成」（清水信宏）■「コミュニティを再興/再考するーカクマ難民キャンプにおけるロピットの CBO に関する試論」（村橋勲）■「ケニア・キツイ州における農民の土壌肥沃土評価：文化的背景および土壌理化学性との関係に着目して」（八下田佳枝）■「タンザニアの伝統舞踏における新たなスタイルの創出に関する考察」（相原進）■「イレーチャ事件はいかにして起こったのか？：食い違う証言と多様化する解釈を事例として」（大場千景）■「南部エチオピアのボラナ社会における老人ケア」（田川玄）。

最優秀発表賞には、清水信宏会員（慶應義塾大学）が選ばれました。清水会員には、JANES ニュースレターNo.25-2 に寄稿していただく予定です。

写真：農耕民への地下足袋導入の経緯について口頭発表をおこなう田中利和会員

資料 1

2016 年度事業報告（案）

(1) 第 25 回学術大会
2016 年 4 月 17 日（日）、白浜荘アネックス淡海コンベンションホール（滋賀県高島市）

(2) 公開シンポジウム「ティム・アレン教授とメリッサ・バーカー博士による講演」
2016 年 4 月 16 日（土）、白浜荘アネックス淡海コンベンションホール（滋賀県高島市）

(3) 第 22 回高島賞の授与
大門碧『ショー・パフォーマンスが立ち上がる――現代アフリカの若者たちがむすぶ社会関係』（春風社、2015 年）

(4) 第 3 回最優秀発表賞の授与
第 25 回学術大会において、口頭発表「身体障害者が積極的な社会生活を送るために実践している工夫――ケニア・サンブル社会の事例」の善積実希会員に対して本賞を授与した。

(5) 学会誌の発行・編集
Nilo-Ethiopian Studies No.21 の編集・発行・発送、No. 22 の編集

(6) ニュースレターの発行・編集
JANES ニュースレター23 号、24-1 号、24-2 号、24-3 号の編集・発行

(7) 会費請求
2016 年度学術大会会場において参加会員に請求した。また 2016 年 6 月に請求書を送付した。

資料 2

2017 年度事業計画（案）

(1) 第 26 回学術大会
2017 年 4 月 16 日（日）、富山大学人文学部第 3 講義室

(2) 公開シンポジウム「アフリカと日本の無形文化遺産——保護・継承・発展にむけて」
2017 年 4 月 15 日（土）、富山大学人文学部第 6 講義室

(3) 第 23 回高島賞の選考

(4) 学会誌の編集・刊行
Nilo-Ethiopian Studies No.22 の印刷・発送および No. 23 の編集・印刷・発送

(5) ニュースレターの編集・公開
JANES ニュースレター25 号の編集・公開

(6) 会費請求
2017 年度学術大会会場において参加会員に請求する。また 2017 年 6 月に請求書を送付する。

資料 3

第 27 回学術大会（2018 年度）の開催について

開催日：2018 年 4 月 21 日から 22 日
開催地：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

第 28 回学術大会（2019 年度）の開催について

開催日：2019 年 4 月 20 日から 21 日
開催地：検討中

資料 4

高島賞の選考について

日本ナイル・エチオピア学会高島賞第 23 回受賞候補として、増田研評議員より 1 件の推薦を受け、これについて田川玄会員（選考委員長）、西崎伸子会員（選考委員）、佐藤美穂会員（選考委員）の 3 名が審査をおこなった。その結果、野口真理子会員による「エチオピア西南部アリ農村における高齢者の生活を支える社会関係」（『アフリカ研究』90 号 71–83 頁、2016 年）が高島賞受賞に値する旨の報告を受けた。

4. Nilo-Ethiopian Studies 投稿のすすめ

Nilo-Ethiopian Studies は毎年 4 月に定期刊行しています。本誌は対象地域における研究成果を広く世界に発信するという目的のもと、ユニークな方針で編集をおこなっています。

ひとつ目の特徴は、詳細なフィールドの記述を重視している点です。本誌は、特定の理論にもとづく枠組みの提示と考察を重視するだけでなく、一次資料をもとにした民族誌的な記述や貴重な資料の分析を含んだ、オリジナルな記述をもとにした論文の投稿も歓迎しています。そして、査読は良質な地域研究の発信に寄り添う過程と位置づけ、第一線の研究者が論文としての条件をクリアするために必要な分析と考察を具体的に提案しています。とくに若手研究者のみなさんには積極的に投稿してほしいと思います。

さらに本誌には、英文校正の費用を学会側で負担する「学会負担英文校正」という独自の仕組みがあります。ご投稿される方には、査読を受ける前に（つまり投稿する前に）この学会負担による英文校正を受けるようすすめています（投稿前に英文校正の必要ない方は、投稿論文を受理後に学会が英文校正費を負担して校正いたします）。この仕組みを活用しての投稿を希望される方は編集長（波佐間逸博：hazama@nagasaki-u.ac.jp）までご連絡ください。

次号（第 23 号）の投稿締切は、Article と Research Report が 2017 年 9 月頃、Book Review は 2018 年 1 月頃です。投稿前に個別の相談もうけつけますので、質問・要望がある方はご連絡ください。投稿先は、日本ナイル・エチオピア学会編集委員会事務局（nes@janestudies.org）です。よろしくお願いします。

（波佐間逸博会員）

会員の異動（2016 年 1 月－2017 年 3 月 31 日）

・入会者（氏名・入会年・所属）

【一般会員】
泉 直亮・2016 年・京都大学
目黒 紀夫・2016 年・広島市立大学

【学生会員】
イナガキ バーバラ・2016 年・大阪大学
川股 一城・2016 年・京都大学
野田 章子・2016 年・立命館大学
原 将吾・2016 年・筑波大学
山崎 暢子・2016 年・京都大学
善積 実希・2016 年・京都大学
相原 進・2017 年・立命館大学
下山 花・2017 年・京都大学
土井 保真利・2017 年・京都大学
朴 美京 2017 年・法政大学
松原 加奈・2017 年・京都大学
水上 優・2017 年・京都大学
八下田 佳恵・2017 年・英国レディング大学

・退会者（氏名・退会年）

森際 眞知子・2016 年
岩本 俊孝・2016 年
諏訪 兼位・2016 年
三笠宮 崇仁 親王殿下・2016 年
佐々木 純子・2017 年
森川 孝典・2017 年

編集後記

7 月 21 日付けの在エチオピア日本大使館からの情報によれば、新たな税制度に対する抗議活動として、オロミア州アンボ州、シャシャマニ市、ウォリソ市などいくつかの店で店舗が閉鎖しており、警察が同市内の警戒を強めているという情報がでています。

今年度も、編集委員を中心に、会員の方にもご協力いただきながら、できる限り最新の情報を会員のみなさんへお届けするようにいたします。2017 年度も日本ナイル・エチオピア学会ニュースレターをよろしくお願いいたします。（MK）

- 1 頁目写真上：エチオピア西南部（撮影：2001 年 12 月、金子守恵）
- 1 頁目写真下：撮影者　橋本陞
- 2 頁目写真上：エチオピア南部（撮影：2001 年、金子守恵）
- 3 頁目写真上：エチオピア南部（撮影：2001 年、金子守恵）
- 4 頁目写真上：撮影者　村橋勲
- 4 頁目写真左下：撮影者　村橋勲
- 4 頁目写真中央：撮影者　金子守恵
- 4 頁目写真右下：撮影者　金子守恵）

JANES ニュースレター　No.25-1

2017 年 8 月 1 日配信

編集・配信：日本ナイル・エチオピア学会

編集委員：金子守恵、佐藤靖明
佐藤美穂、村橋勲